

京田辺市 市民満足度調査 結果報告書



令和4年12月
京田辺市

はじめに

令和4年4月に市制施行25周年を迎えた本市は、これまで、豊かな自然環境と高い交通利便性を生かし、市北部・中部・南部の拠点駅を中心とした便利なコンパクトシティの形成に取り組むとともに、子育て支援に重点を置いたまちづくりを進めてきました。その結果、全国的に多くの自治体が人口減少に転じる中、本市では子育て世代を中心とした人口流入が続いています。

しかし、社会情勢の移り変わりとともに市民ニーズが複雑多様化することから、地方自治体には、財政状況が極めて厳しい中、事業の優先度・費用対効果や将来の財政負担等を総合的に勘案し、市民の視点に立った質の高い行政サービスを提供することが求められています。

こうしたことから、本市では、平成22年度から定期的に市民満足度調査を実施し、重点的に取り組むべき施策の指針にするとともに、令和2年3月に策定した第4次京田辺市総合計画の前期基本計画「まちづくりプラン」に基づき、重点施策を展開しています。過去の市民満足度調査の結果を見ても、本市に対する総合的な満足度は高く、高い定住意向が伺えます。

4回目となる今回の調査では、「まちづくりプラン」の施策体系ごとに、福祉・教育・環境・産業などのさまざまな分野で進めてきた具体的な取組みに対して、市民の皆さんの満足度・重要度や、市政に対する意見を伺いました。回答方法については、従来、郵送での回答としていましたが、今回から新たにインターネット回答を取り入れ、時代に合ったアンケート調査としました。

調査結果は、今後のまちづくりの貴重な基礎資料として有効に活用するとともに、数多くいただいた意見・提言についても可能な限り市政に反映し、市民サービスのさらなる向上に取り組めます。

今回の調査にあたりまして、ご協力いただきました市民の皆さんにお礼申し上げますとともに、今後とも本市のまちづくりに対する積極的な参画と協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

目 次

I. 調査の概要.....	1
1.調査の目的.....	1
2.調査の設計.....	1
3.調査内容.....	1
4.回収状況.....	2
5.報告書を見る際の注意事項.....	2
II. 調査結果.....	3
1.回答者の属性.....	3
2.定住意向.....	5
2-1.住み続けたい理由.....	8
2-2.住み続けたくない理由.....	10
3.総合評価.....	11
4.市民の満足度・重要度.....	11
III. 調査のまとめ.....	18

I. 調査の概要

1. 調査の目的

令和2年度以降、市が福祉・教育・環境・産業などのさまざまな分野で進めてきた施策や事業などの取り組みに対して、市民の考え（満足度と重要度）を把握し、結果をまちづくりの基礎資料として活用するとともに、事務事業などの行財政運営の参考とします。

2. 調査の設計

- 調査対象：令和4年4月1日現在、本市に住民登録を有する18歳以上の男女3,000人
- 対象抽出方法：地域別に人口・年代・性別で比例配分した無作為抽出
- 調査方法：郵送で配布し、郵送・インターネットで回収
- 調査期間：令和4年7月15日～同月31日
- 抽出数の根拠：一般的に統計的に有意であるとされる標本誤差は±3～5%に収めるのが目安とされています。今回の調査では、標本誤差が±3～5%を満たす結果とするため、これまでの調査の回収率を勘案して、対象者数を3,000人としました。

3. 調査内容

- 市が令和2年度以降に実施した施策を13項目に分類し、それぞれ取り組んだ具体的な事業を示して、施策に対する満足度と重要度を次の5段階で尋ねました。

満足度： 5.満足 4.おおむね満足 3.どちらでもない 2.やや不満 1.不満

重要度： 5.重要 4.やや重要 3.どちらでもない 2.あまり重要でない 1.重要でない

- 施策ごとに意見・提言等の自由記述欄を設けました。
- 回答者の属性による分析を行うため、性別・年齢・職業・居住年数・居住地域について選択肢を示し、回答を求めました。
- 「今後も京田辺市に住み続けたいか」、また「その理由」について選択肢を示し、回答を求めました。

4. 回収状況

対象数	回収数	回収率
3,000人 ※実質送付数…2,993人	964人 ・郵送回答：551人（57%） ・インターネット回答：413人（43%）	32.21% ※前回の回収率は 36.40%

- 調査の精度：今回の調査における回収数は964人のため、標本誤差は3.13%になります。これは一般的に統計的に有意であるとされる標本誤差（±3～5%）の範囲に収まっており、18歳以上の市民全体の意見を推定するために必要な精度を満たしています。
なお、標本誤差（d）は統計学的に以下の計算式で算出され、標本数（回答者数）と回答比率によって誤差の幅が異なります。

$$d = \lambda \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$$\left(\begin{array}{l} \lambda = \text{信頼度 95\%としたときの定数 (=1.96)} \\ N = \text{母集団数 (=57,738人。令和4年4月1日現在、満18歳以上の人口)} \\ n = \text{標本数 (=964件)} \\ p = \text{回答比率 (=0.5)} \end{array} \right)$$

5. 報告書を見る際の注意事項

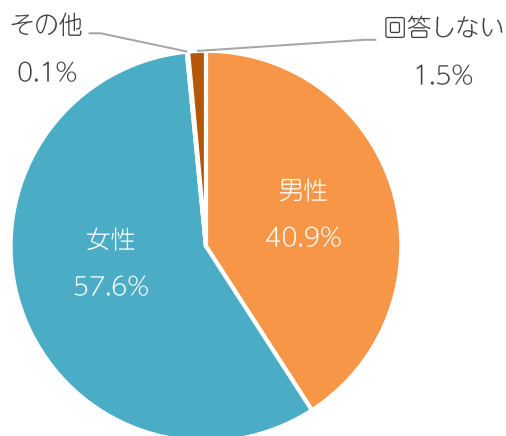
- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（%）で示しています。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。このため、百分率の合計が100%にならないことがあります。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合があります。
- 「10歳代」は18歳・19歳の人です。
- 「松井・大住」「同志社山手」以外の居住地域については、以下の表記としています。
「山手・松井ヶ丘・花住坂・大住ヶ丘」→「山手地域」
「薪・田辺・河原・興戸」→「田辺地域」
「東・草内・飯岡」→「草内地域」
「三山木・宮津」→「三山木地域」
「多々羅・普賢寺・水取・打田・天王・高船」→「普賢寺地域」

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者の属性

(1) 性別 (n=959)

・回答者の性別は、「男性」が40.9%、「女性」が57.6%であった。

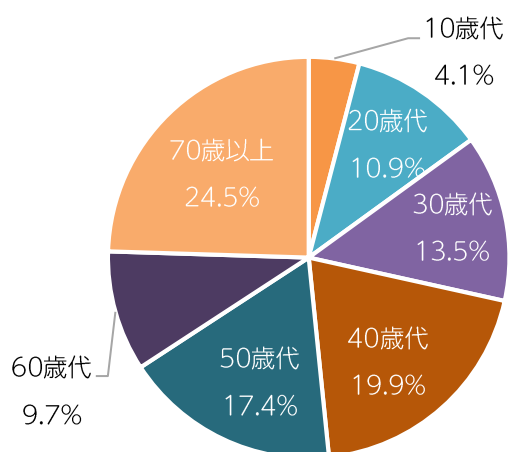


対象者抽出時における
性別人口構成比

男性	48.3%
女性	51.7%

(2) 年齢別 (n=959)

・市の人口構成比とおおむね同じである。

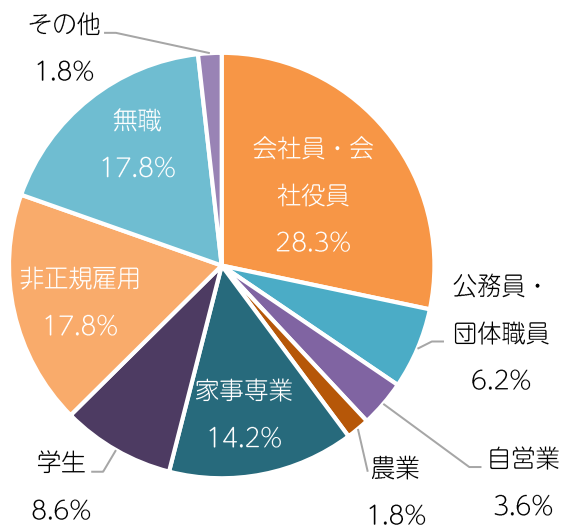


対象者抽出時における
年齢別人口構成比

10歳代	3.1%
20歳代	12.1%
30歳代	12.8%
40歳代	19.6%
50歳代	16.3%
60歳代	11.5%
70歳以上	24.6%

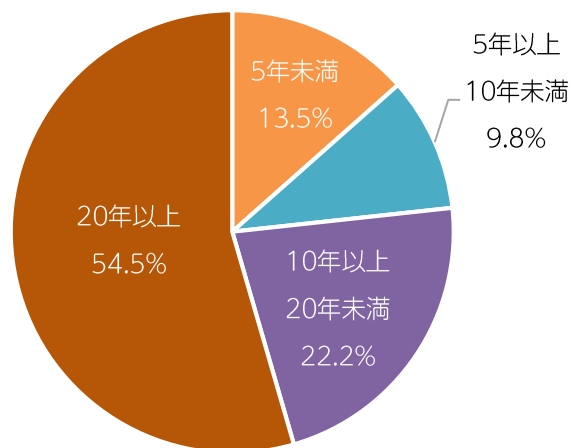
(3) 職業別 (n=954)

・会社員・会社役員が28.3%と最も多く、非正規雇用、無職が17.8%と次いで多くなっている。



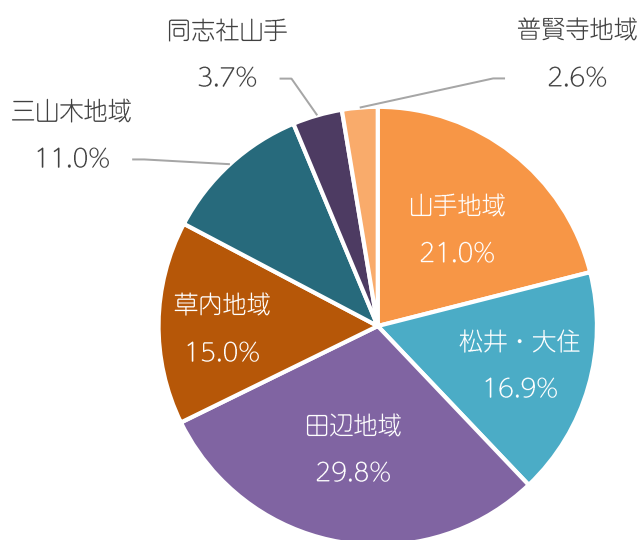
(4) 居住期間別 (n=958)

・20年以上が54.5%と過半数を上回っている。



(5) 居住地域別 (n=955)

・市の人口構成比とおおむね同じである。

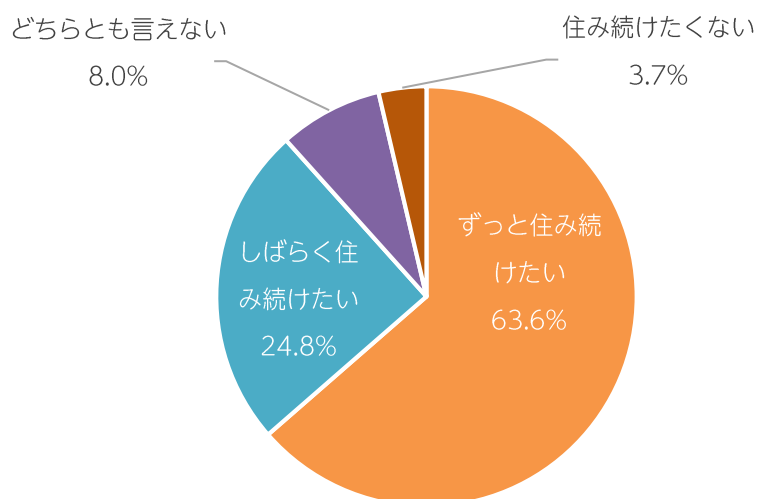


対象者抽出時における 居住地域別人口構成比	
山手地域	23.5%
松井・大住	10.9%
田辺地域	33.6%
草内地域	14.4%
三山木地域	10.9%
同志社山手	4.8%
普賢寺地域	2.1%

2. 定住意向

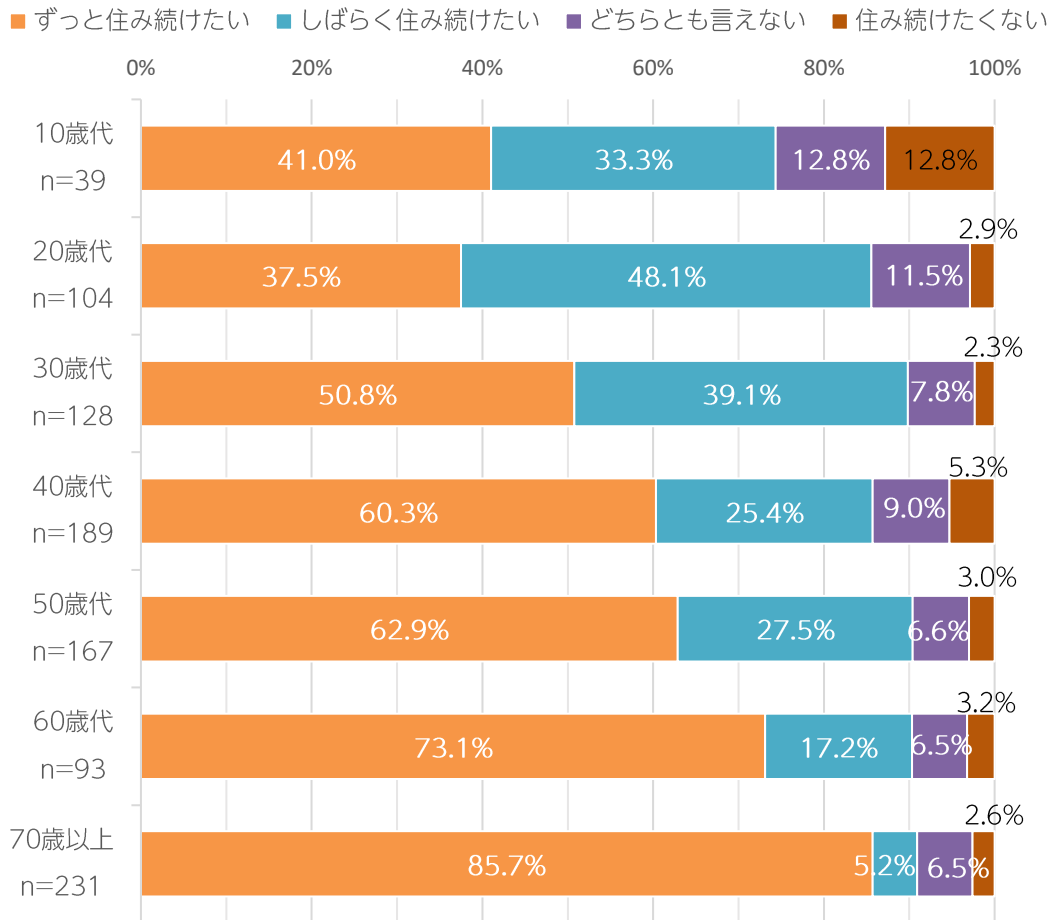
(1) 全体 (n=953)

・「ずっと住みたい」「しばらく住みたい」を合わせた定住意向は88.4%と約9割を占めている。前回調査時の定住意向は86.6%であり、約2%高くなっている。



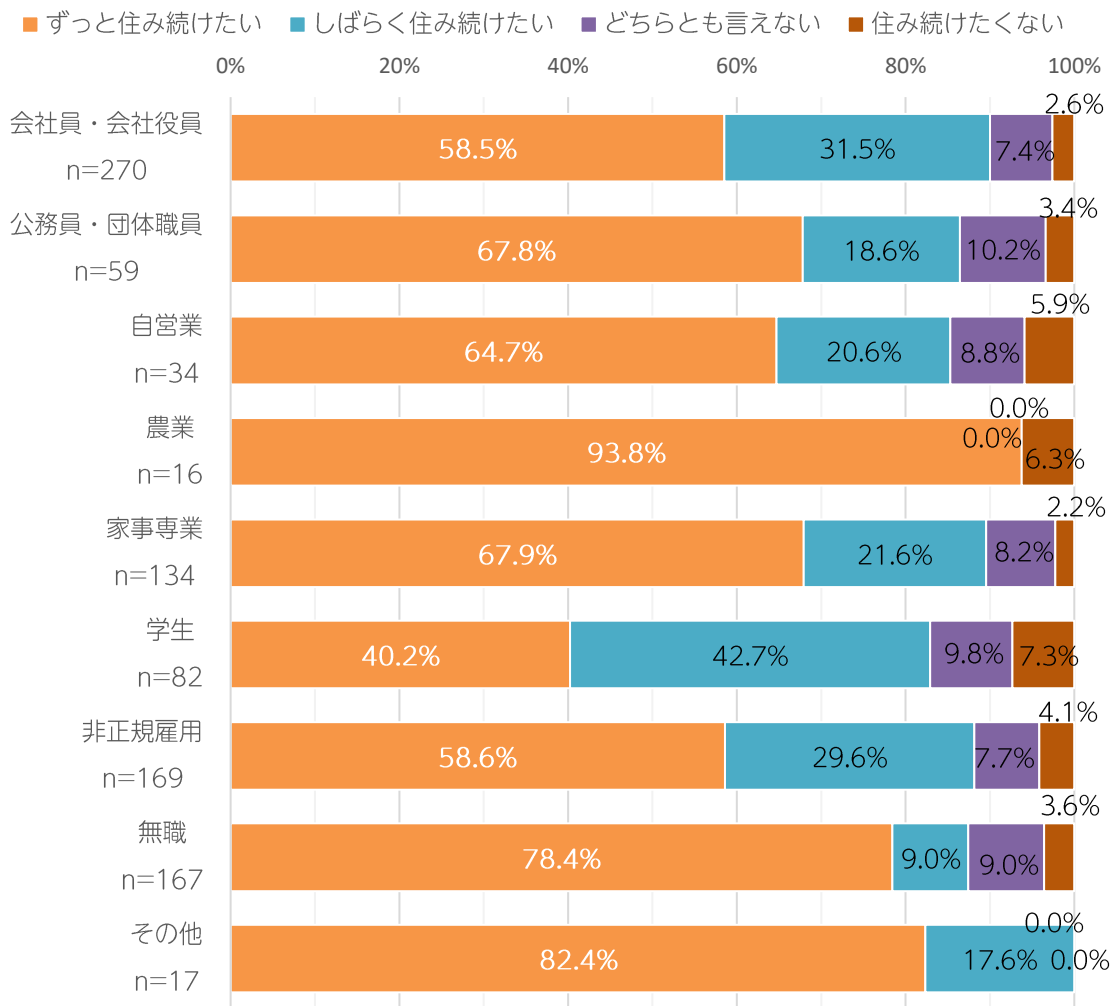
(2) 年齢別

・年齢とともに定住意向が高まる傾向がみられる。特に50歳以上は約9割の定住意向がある。



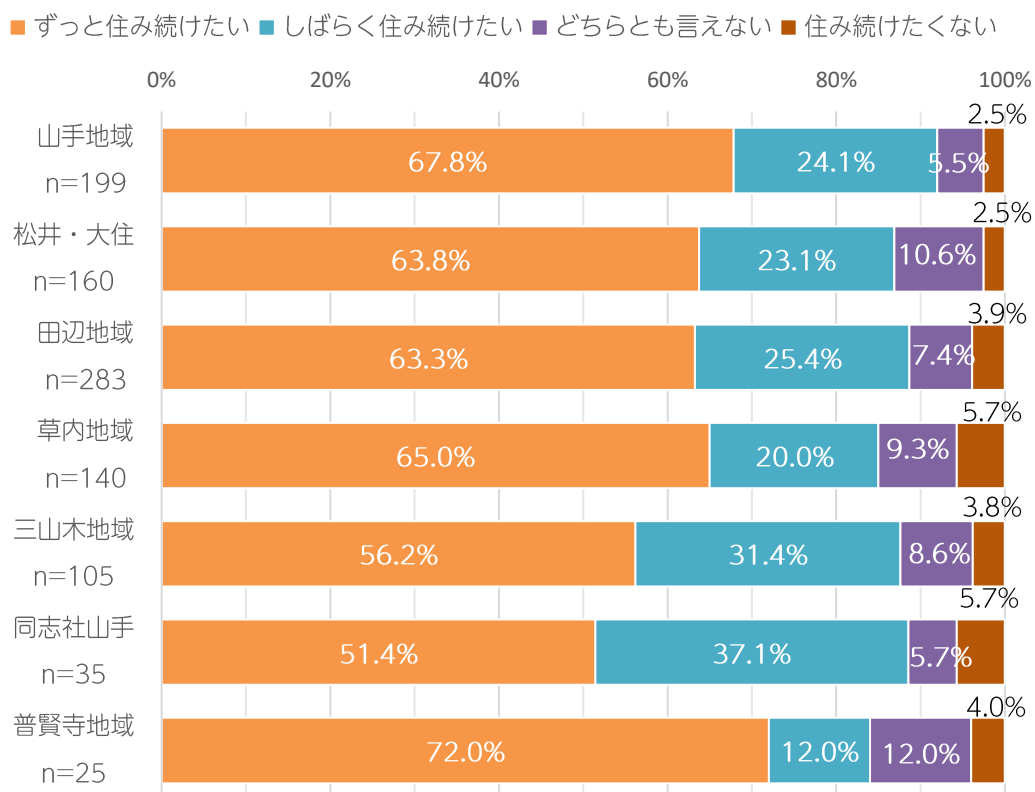
(3) 職業別

・会社員・会社役員、農業、家事専門の定住意向が約9割と高く、学生が82.9%とやや低くなっている。



(4) 居住地域別

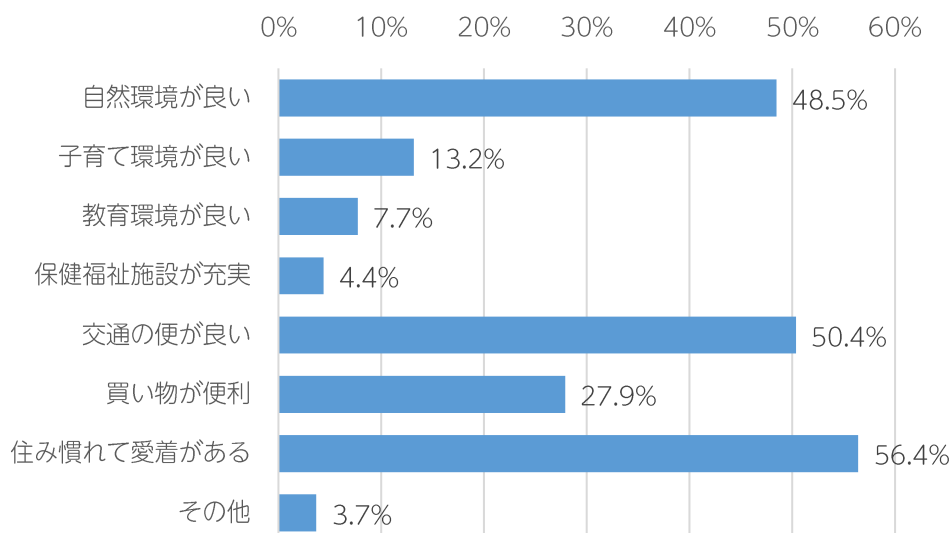
・定住意向は全ての地域で8割を超えており、特に普賢寺地域で「ずっと住み続けたい」が72%と、他の地域と比べて最も高くなっている。



2-1. 住み続けたい理由 ※複数回答

(1) 全体 (n=842)

・「住み慣れて愛着がある」「交通の便が良い」「自然環境が良い」が多くを占めている。「その他」の理由には、「治安・生活環境が良い」「災害が少ない」「町の規模がほどよく暮らしやすい」などがあつた。



(2) 年齢別

・年代を問わず「自然環境が良い」「交通の便が良い」「住み慣れて愛着がある」の割合が高くなっている。加えて、30歳代は「子育て環境が良い」、70歳以上は「買い物 convenient」の割合が高くなっている。

	回答者数 (人)	自然環境が 良い	子育て環境 が良い	教育環境が 良い	保健福祉 施設が充実	交通の便が 良い	買い物が 便利	住み慣れて 愛着がある	その他
10歳代	29	44.8%	6.9%	10.3%	0.0%	58.6%	17.2%	75.9%	6.9%
20歳代	89	39.3%	9.0%	10.1%	3.4%	59.6%	25.8%	58.4%	6.7%
30歳代	115	40.9%	36.5%	9.6%	0.0%	46.1%	20.0%	36.5%	3.5%
40歳代	162	51.9%	22.2%	14.2%	5.6%	52.5%	24.7%	45.1%	5.6%
50歳代	151	52.3%	11.9%	5.3%	5.3%	53.6%	29.1%	50.3%	1.3%
60歳代	84	40.5%	3.6%	4.8%	1.2%	36.9%	23.8%	71.4%	4.8%
70歳以上	210	54.8%	1.0%	2.9%	7.6%	48.6%	38.1%	71.4%	1.9%

30%以上は太字・網掛け

(3) 職業別

・職業を問わず「自然環境が良い」「交通の便が良い」「住み慣れて愛着がある」の割合が高くなっている。加えて、公務員・団体職員は「子育て環境が良い」、家事専業、無職は「買い物 convenient」の割合が高くなっている。

	回答者数 (人)	自然環境が 良い	子育て環境 が良い	教育環境が 良い	保健福祉 施設が充実	交通の便が 良い	買い物が 便利	住み慣れて 愛着がある	その他
会社員・ 会社役員	243	49.0%	19.3%	7.8%	3.3%	53.9%	22.6%	45.7%	3.7%
公務員・ 団体職員	51	37.3%	33.3%	11.8%	2.0%	54.9%	21.6%	45.1%	5.9%
自営業	29	48.3%	10.3%	6.9%	6.9%	41.4%	27.6%	65.5%	3.4%
農業	15	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	26.7%	86.7%	0.0%
家事専業	120	52.5%	15.0%	7.5%	5.0%	43.3%	42.5%	54.2%	1.7%
学生	68	47.1%	5.9%	14.7%	1.5%	58.8%	19.1%	72.1%	5.9%
非正規雇用	149	47.7%	12.1%	8.1%	4.7%	48.3%	25.5%	51.7%	4.7%
無職	146	49.3%	1.4%	4.1%	6.8%	50.0%	34.9%	69.2%	3.4%
その他	17	58.8%	11.8%	5.9%	5.9%	47.1%	11.8%	82.4%	0.0%

30%以上は太字・網掛け

(4) 居住地域別

・地域を問わず「自然環境が良い」「住み慣れて愛着がある」の割合が高くなっている。加えて、同志社山手では、「子育て環境が良い」の割合が高くなっている。「交通の便が良い」は同志社山手・普賢寺地域では割合が低くなっている。「買い物便利」は地域差があり、山手地域・田辺地域・三山木地域では割合が高いが、松井・大住・草内地域・同志社山手・普賢寺地域では低く、同志社山手では0%であった。

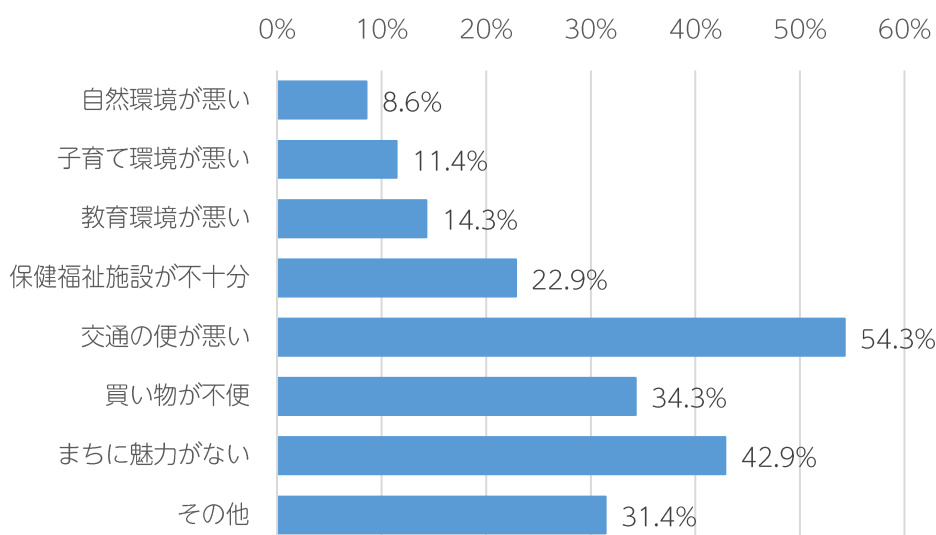
	回答者数 (人)	自然環境が 良い	子育て環境 が良い	教育環境が 良い	保健福祉 施設が充実	交通の便が 良い	買い物が 便利	住み慣れて 愛着がある	その他
山手地域	183	45.4%	10.4%	12.6%	2.7%	59.0%	41.0%	54.6%	3.8%
松井・大住	139	47.5%	15.8%	10.1%	3.6%	34.5%	20.9%	61.9%	3.6%
田辺地域	251	45.0%	9.6%	4.4%	4.8%	58.6%	31.9%	52.6%	4.0%
草内地域	119	55.5%	16.0%	4.2%	8.4%	46.2%	16.8%	63.0%	3.4%
三山木地域	92	48.9%	14.1%	6.5%	3.3%	56.5%	30.4%	54.3%	3.3%
同志社山手	31	61.3%	41.9%	9.7%	6.5%	22.6%	0.0%	41.9%	3.2%
普賢寺地域	21	61.9%	0.0%	9.5%	0.0%	19.0%	9.5%	76.2%	4.8%

30%以上は太字・網掛け

2-2. 住み続けたくない理由 ※複数回答

(1) 全体 (n=35)

・「交通の便が悪い」が54.3%と最も割合が高くなっているものの、標本数が少なく精度が高いとはいえない。



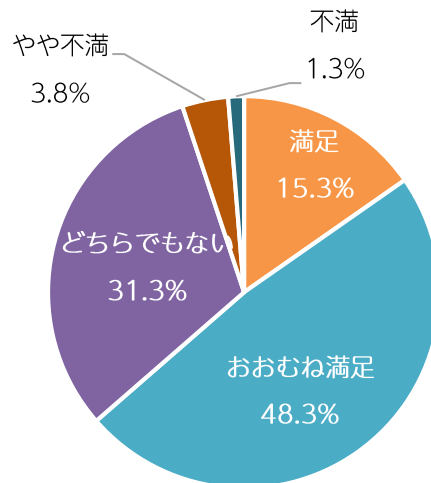
3. 総合評価（5段階の指数評価）

評価： 4 「おおむね満足」

4. 市民の満足度・重要度

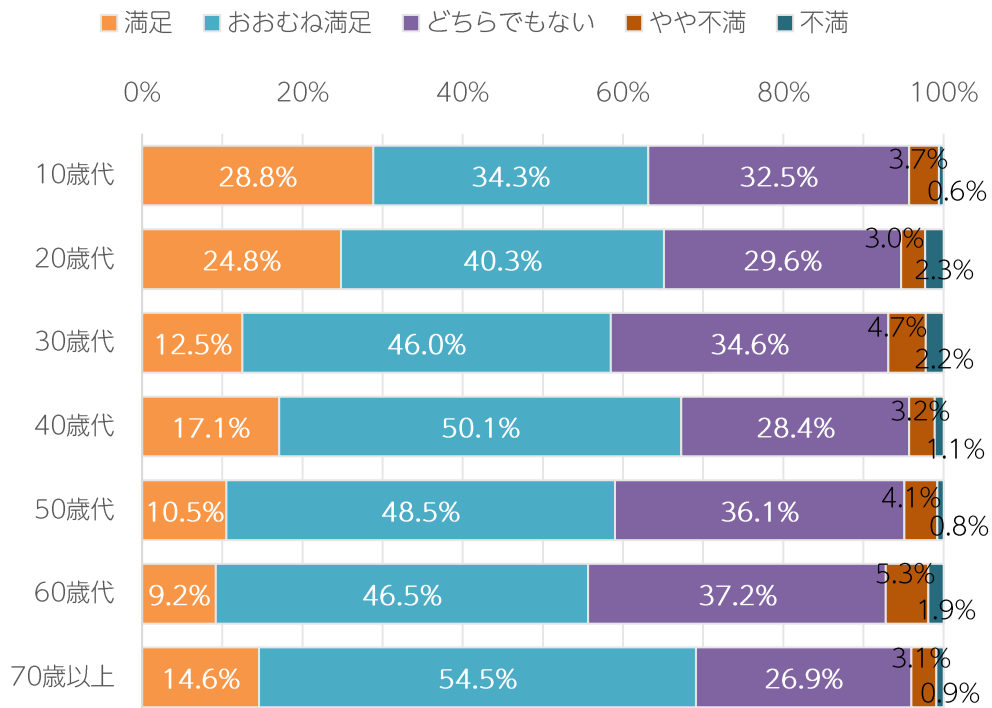
(1) 全体

・満足度については「満足」と「おおむね満足」を合わせて63.6%と、6割以上を占めている。



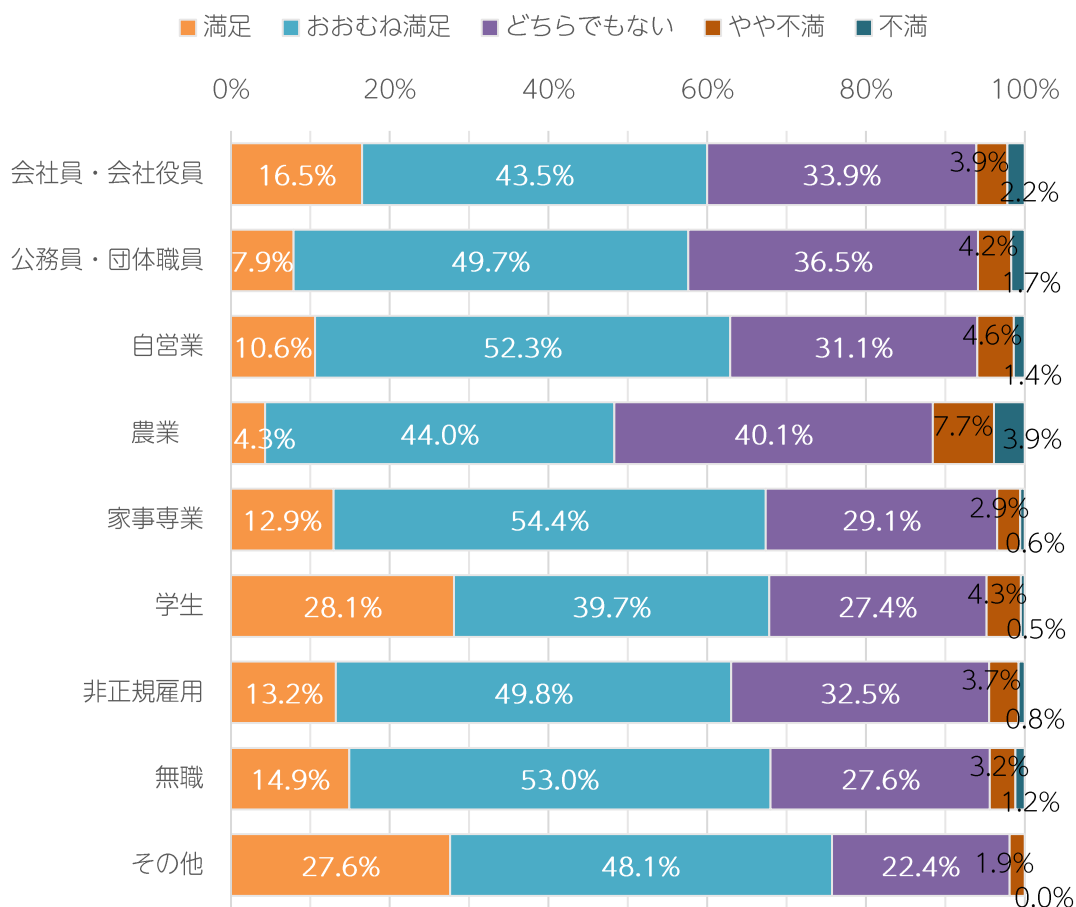
(2) 年齢別

・すべての年代で「おおむね満足」が最も多くを占めている。また、10・20歳代は「満足」が占める割合が、他の年代に比べて高くなっている。



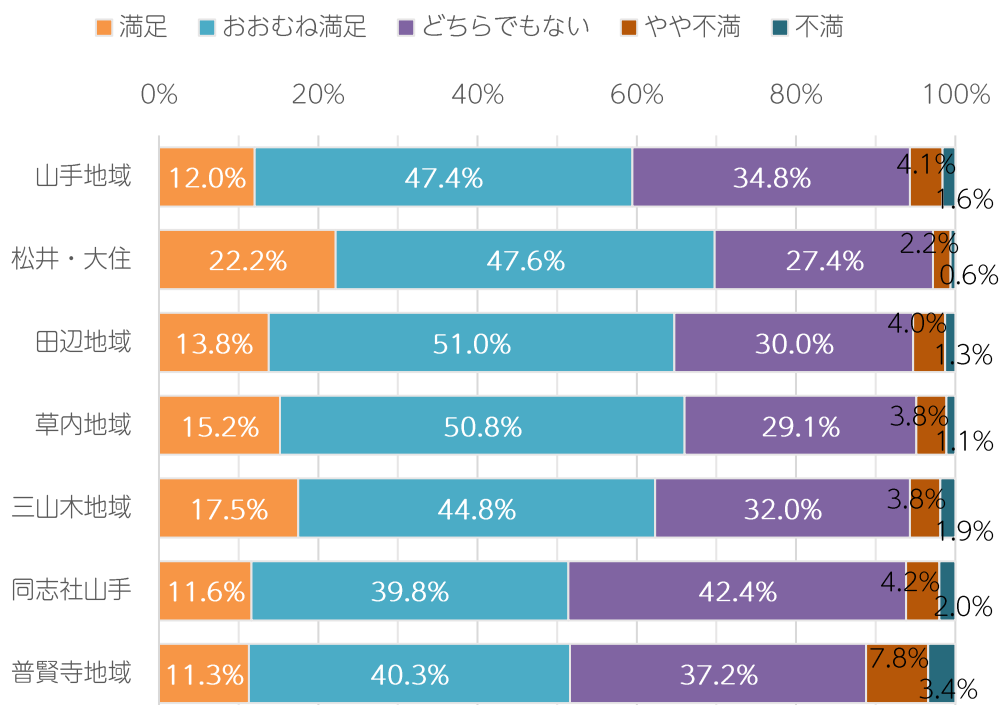
(3) 職業別

・すべての職業で「おおむね満足」が最も多くを占めている。また、農業では「どちらでもない」が占める割合が約4割と、すべての職業の中で最も高くなっている。



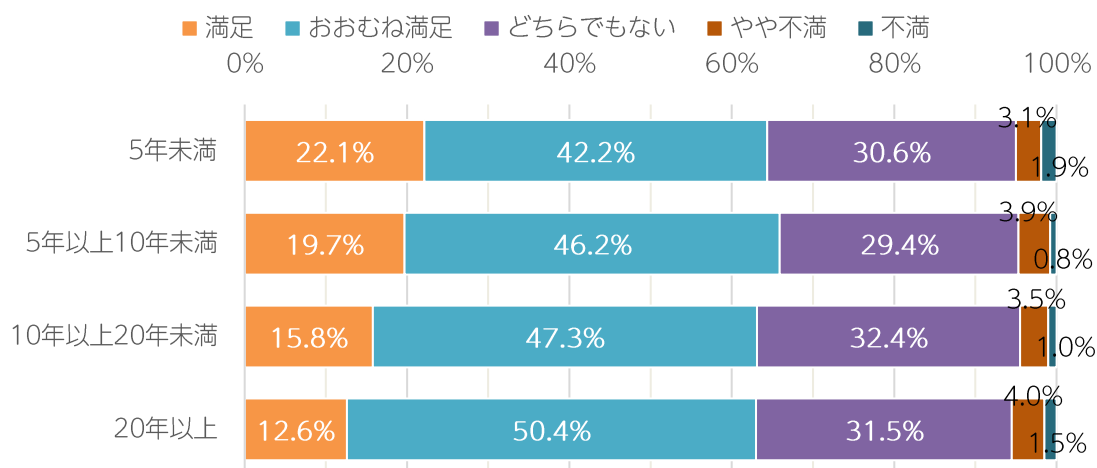
(4) 居住地域別

・松井・大住で「満足」の割合が最も高くなっている。また、同志社山手以外の地域で「おおむね満足」が最も多くを占めている。同志社山手では「どちらでもない」の割合が42.4%と最も高くなっている。



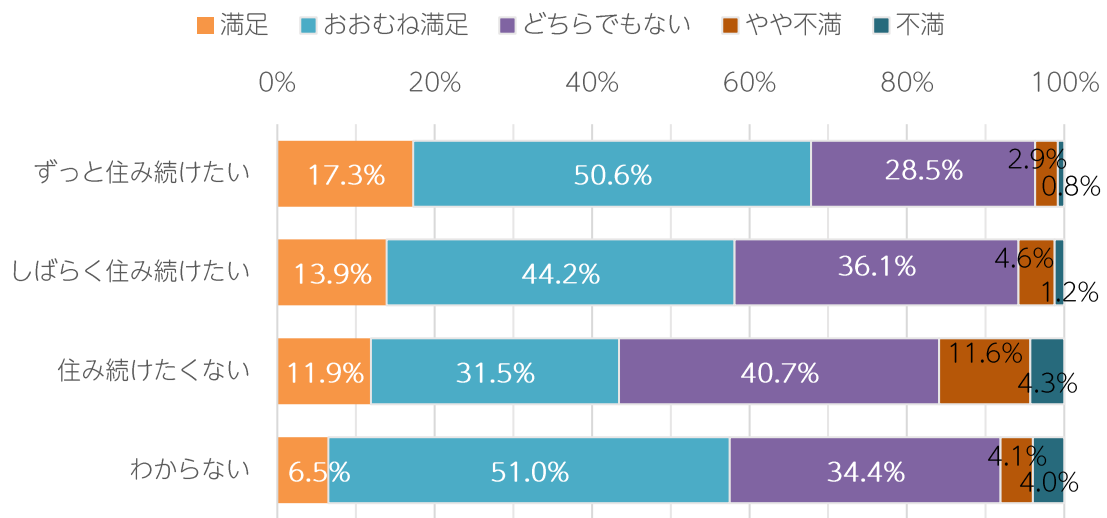
(5) 居住年数別

・すべての居住年数で「満足」と「おおむね満足」が合わせて6割以上を占めている。



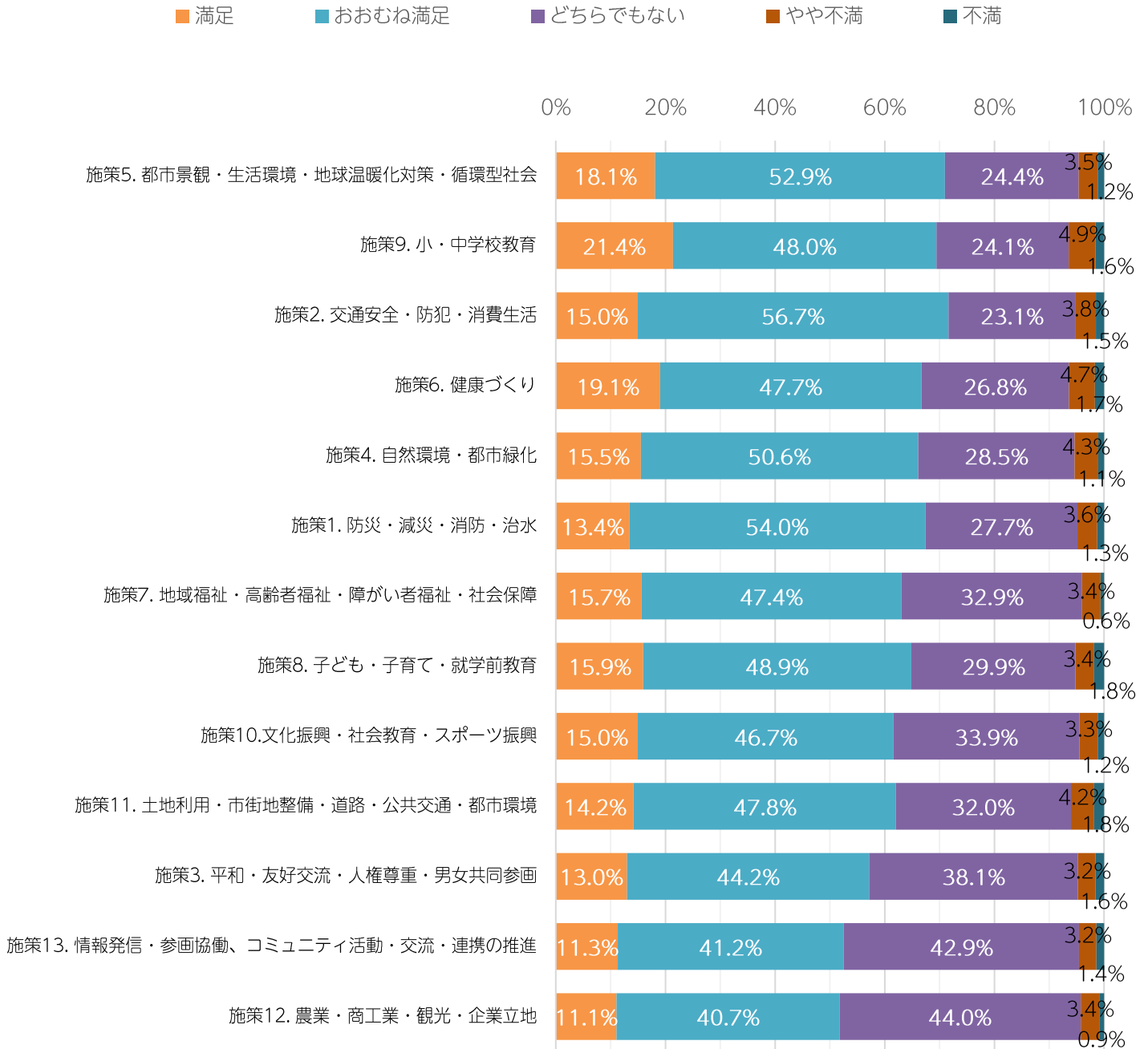
(6) 定住意向別

・「ずっと住みたい」で「満足」と「おおむね満足」が合わせて約7割を占めている。また、「住みたくない」で「やや不満」「不満」が占める割合は約16%となっている。



(7) 市民満足度の高い施策の順位

5段階評価（5.満足 4.おおむね満足 3.どちらでもない 2.やや不満 1.不満）における、満足度指数*が高い施策の順番に並べている。

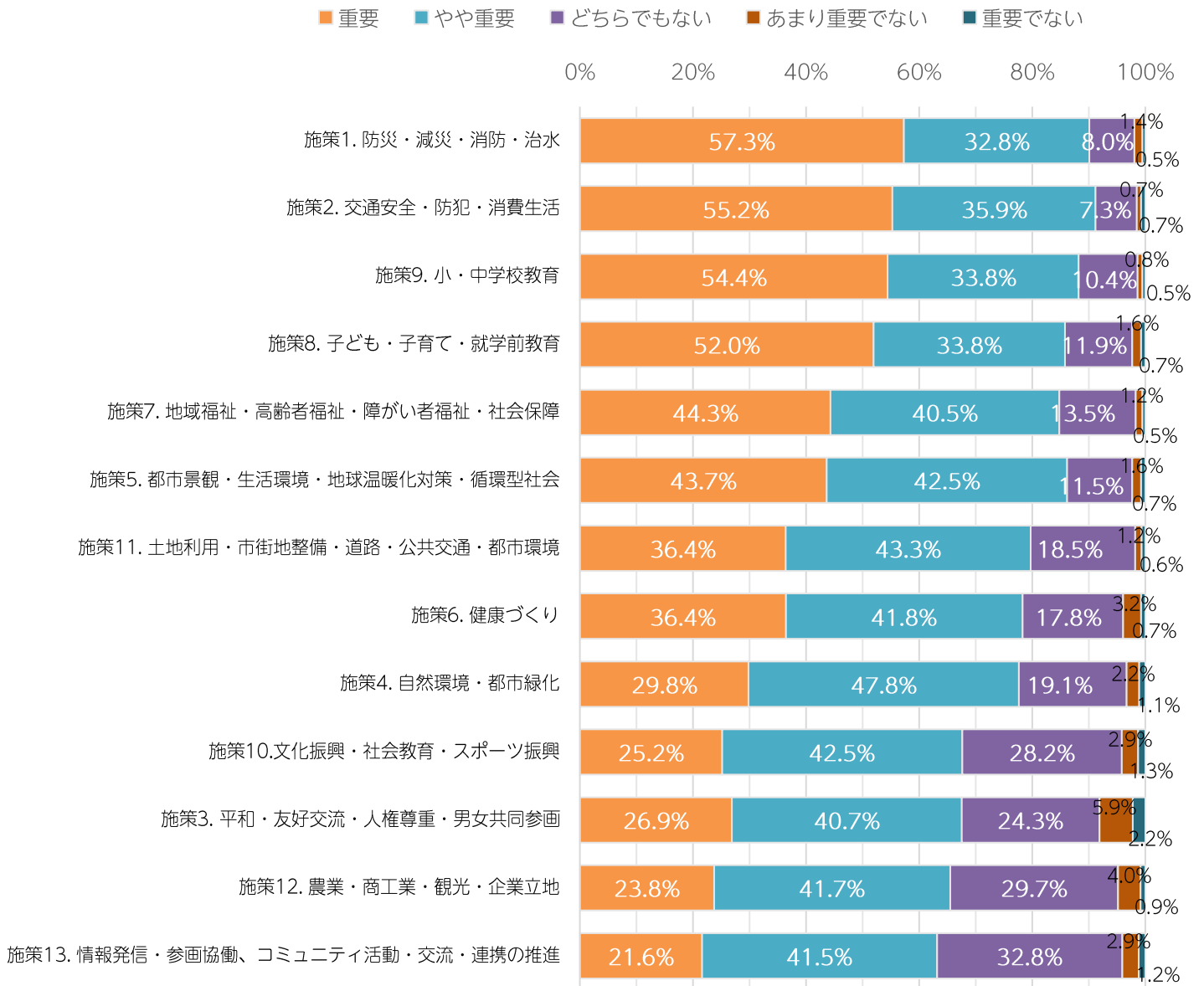


※ 各選択肢について、以下のような点数を設定し、それらの合計を有効回答数で割ったものを「満足度指数」とします。

$$\text{満足度指数} = \frac{[\text{満足}] \times 5 + [\text{おおむね満足}] \times 4 + [\text{どちらでもない}] \times 3 + [\text{やや不満}] \times 2 + [\text{不満}] \times 1}{\text{有効回答数}}$$

(8) 市民が重要と考える施策の順位

5段階評価 (5.重要 4.やや重要 3.どちらでもない 2.あまり重要でない 1.重要でない) における、重要度指数*が高い施策の順番に並べている。

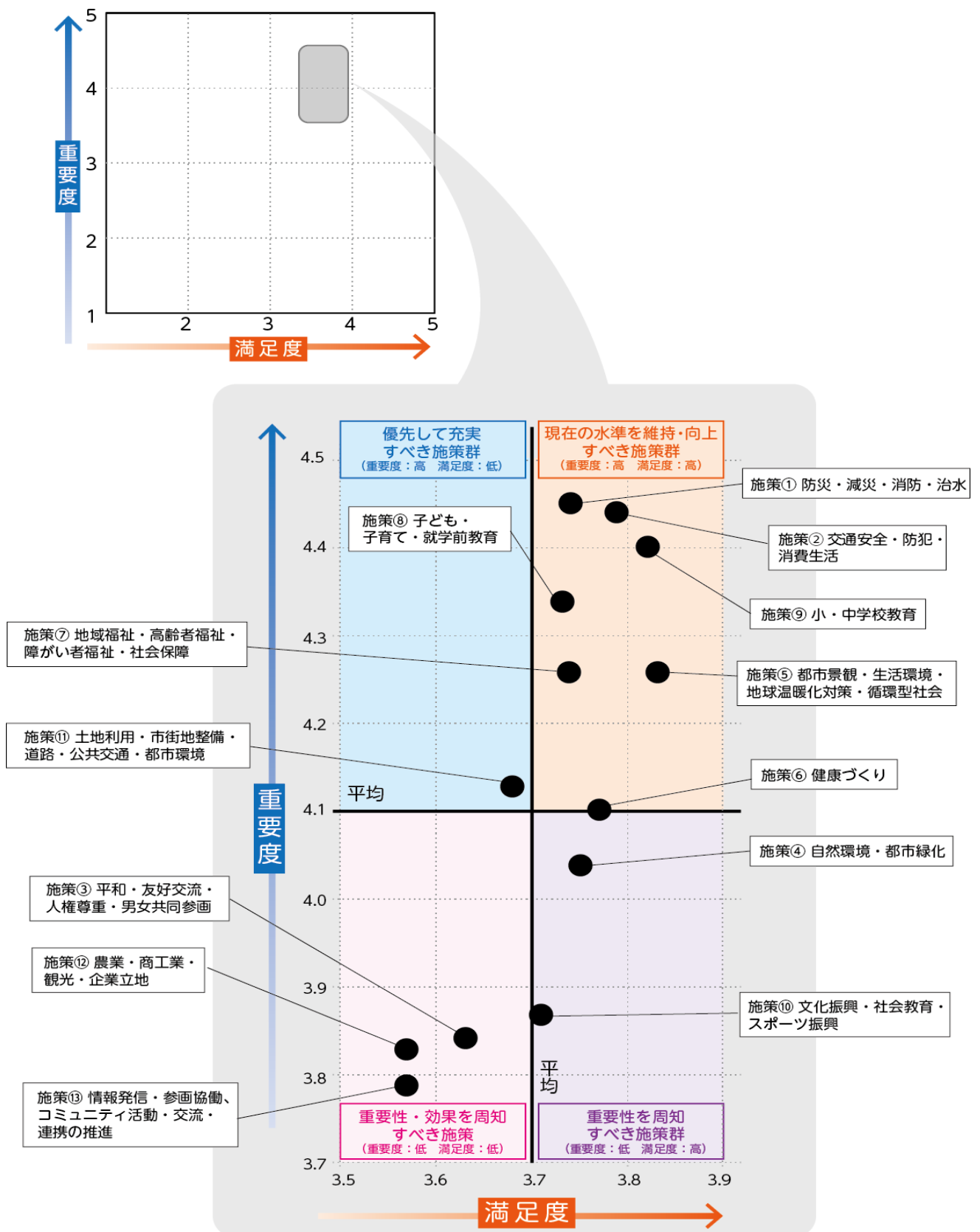


* 各選択肢について、以下のような点数を設定し、それらの合計を有効回答数で割ったものを「重要度指数」とします。

$$\text{重要度指数} = \frac{\text{「重要」} \times 5 + \text{「やや重要」} \times 4 + \text{「どちらでもない」} \times 3 + \text{「あまり重要でない」} \times 2 + \text{「重要でない」} \times 1}{\text{有効回答数}}$$

(8) 施策に対する満足度・重要度（平均点を基準とした散布度合い）

・満足度と重要度は比例関係が見られ、重要度が高い項目は満足度が高くなっていった。また、重要度が低い項目は満足度も低い傾向が見られたが、どの施策においても、満足度が3.5を上回っていた。



Ⅲ 調査のまとめ

回答を集計した結果、市政に対する市民の総合的な満足度は、5段階の指数評価で「4（おおむね満足）」となりました。

また、満足度と重要度は比例関係が見られ、施策の重要度が高い項目は、満足度も高く、施策の重要度が低い項目は、満足度も低いことが分かりました。

ここから、市民ニーズに沿ったまちづくりが展開できていると推察されます。

◎満足度について

各施策に対する個別評価を見ると、満足度においては施策⑤「都市景観・生活環境・地球温暖化対策・循環型社会」が最も高く、「満足」と「おおむね満足」を合わせた満足度は7割を超えています。次いで、施策⑨「小・中学校教育」、施策②「交通安全・防犯・消費生活」、施策⑥「健康づくり」、施策④「自然環境・都市緑化」と続いています。定住意向についての設問で「住み続けたい理由」に、約半数が「自然環境が良い」を選んだことも合わせて考えると、都市像「緑豊かで健康な文化田園都市」を目指した市のまちづくりが、市民に満足いただいていることが推察されます。

一方、満足度が低かったのは、施策⑫「農業・商工業・観光・企業立地」、施策⑬「情報発信・参画協働、コミュニティ活動・交流・連携の推進」で、重要度においても低い評価でした。

前回（平成29年）の調査結果と比較すると、施策⑩「文化振興・社会教育・スポーツ振興」、次いで施策⑤「都市景観・生活環境・地球温暖化対策・循環型社会」の満足度が上がっていました。

地域別で見ると、「松井・大住」で全体的に満足度が高い傾向が見られました。一方、満足度が低かったのは「普賢寺地域」で、特に、施策④「自然環境・都市緑化」、施策⑪「土地利用・市街地整備・道路・公共交通・都市環境」、施策⑫「農業・商工業・観光・企業立地」で低い評価となりました。

◎重要度について

重要度では、施策①「防災・減災・消防・治水」が最も高く自由記述欄には、特に洪水対策に関する意見が多く寄せられていました。また、施策②「交通安全・防犯・消費生活」、施策⑨「小・中学校教育」、施策⑧「子ども・子育て・就学前教育」なども重要度が高いと評価され、「安全・安心」「子育て」に対する市民ニーズの高さが読み取れる結果となりました。

年齢別に見ると、施策⑧「子ども・子育て・就学前教育」、施策⑨「小・中学校教育」が、子育て世代とされる20・30歳代で特に重要度が高い評価となりました。

前回（平成29年）の調査結果と比較すると、施策⑬「情報発信・参画協働、コミュニティ活動・交流・連携の推進」、次いで施策⑨「小・中学校教育」の重要度が上がっていました。

今後、市民の皆さんから寄せられた数々の意見・提言を分析し、社会情勢や時代に合わせた新たな事業などにも取り組むことで、より皆さんに満足いただける市政を進めていきます。